

CAD情報

Autodesk Product Design & Manufacturing Collection 製造系コレクションを名称変更 解析とCAMツールの追加で業務範囲が拡大

オートデスクは、2016年から販売してきた製造業向け総合パッケージであるProduct Design Collectionを拡充し、新たにシミュレーション製品とCAM製品を追加した。これに伴い、製品名称をProduct Design & Manufacturing Collectionに変更し、2017年8月より販売を開始した。これにより、製造系コレクションの業務範囲が広がり、製品価値がより一層高まった。その狙いや製品戦略について担当者に話を伺った。



高度なシミュレーションや 2.5～5軸加工などに対応

今回改めてリリースした Product Design & Manufacturing Collectionには、3次元CADのInventor上で動作する構造解析ソフトウェアのNastran In-CAD(ナストラン インキャド)と、同じくInventor上で動作するCAMソフトウェアのHSM Ultimate(エイチエスエム アルティメット)が新たに追加された。これにより、パッケージに含まれるソフトウェアで対応できる業務範囲が、設計からシミュレーション、加工まで広がり、2D/3D設計データを活用する業務を

増やすことができる。

例えば、Nastran In-CADでは、線形静解析、固有値解析をはじめ、非線形領域(塑性領域)の解析や熱・応答・座屈解析など可能になり、設計者を悩ませる熱問題や振動問題、金属疲労の問題などにも的確な結果をすばやく提供する。また、Inventorに完全統合して解析を行えるので、使い慣れたインターフェイスとワークフローで、Nastranの解析結果を使用してデザインレビューなどの情報共有もスムーズに行える。

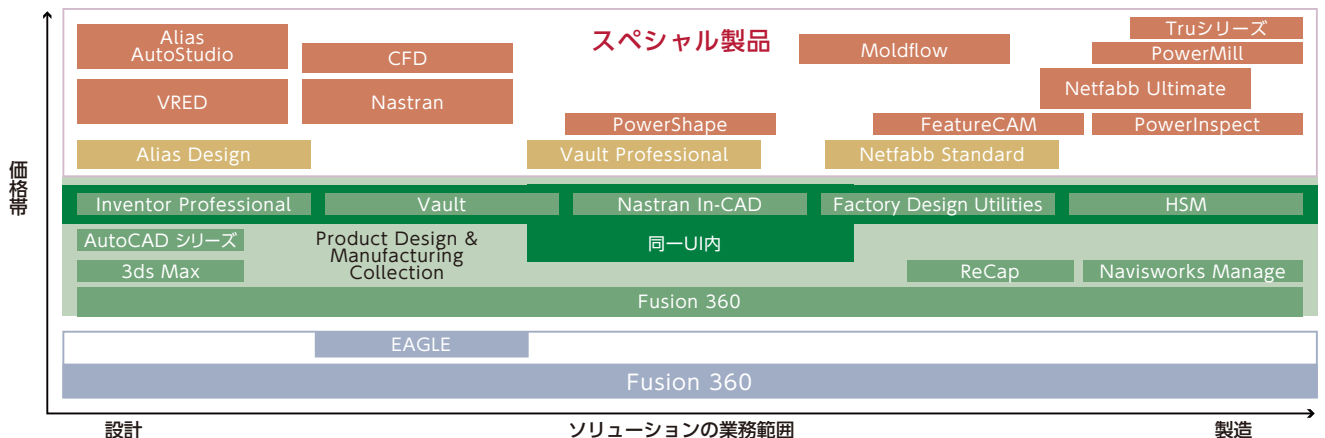
一方、HSM Ultimateは、次世代の統合CAMソリューションで、2.5～5軸

加工機に対応し、設計部門と同じデータを使って加工シミュレーションを行うことができるので、設計変更のたびにデータを変換する煩わしさがなくなる。

従来の製造系コレクション製品は、設計者向けのCADソリューションというイメージが強かったが、Product Design & Manufacturing Collectionと名称変更し、新たに構造解析ソフトウェアとCAMソフトウェアが追加実装されたことで、業務範囲が大きく広がり、製造業向け総合パッケージとしての価値がより一層高まっている。

具体的には、設計者のみならず、解

オートデスクの製造系ソリューション



析担当者や加工担当者、工場計画担当者などが、Inventorを中心とした共通のプラットフォームで効率的に業務が行えるようになる。

オートデスク株式会社 ビジネスストラテジー&マーケティング 製造業ビジネス開発マネージャーの宮岡 鉄哉氏は、「今回のProduct Design & Manufacturing Collectionの投入により、製造系コレクションの業務範囲が広がり、社内で活用できる人が増えました。例えば、これからは加工シミュレーションを行うお客様も販売ターゲットになるので、パートナー様のビジネスチャンスがさらに広がります」と語る。

お客様の課題を解決する提案力でビジネスを拡充

オートデスクの製造系ソリューションは、クラウドをベースにしたFusion 360、業界別コレクション、専門性の強いスペシャル製品の3つの大まかなカテゴリーに分かれている。今回、業界別コレクションに組み込まれたNastran In-CADとHSM Ultimateは、もともとスペシャル製品に分類されていたが、いずれもInventorと同じユーザーインターフェースで利用できるのも、業界

別コレクションに追加されるかたちとなった。

今後もこうしたカテゴリー分けの調整はあるかもしれないが、基本的には、Fusion 360、業界別コレクション、スペシャル製品という3つのカテゴリーで、それぞれの企業の用途やニーズに対応した製造系ソリューションを提供していく方針は変わらないという。

その中で、業界別コレクションについては、The Future of Making Things (ものづくりの未来)につながる「One Path」というキャッチフレーズのもと、企業をものづくりの未来へといざなう取り組みに注力している。そのためには、日々進化を遂げるテクノロジーの変化に柔軟に対応していく必要があるため、今後もソフトウェアの追加やワークフローの機能強化などを図りながら、業界別コレクションを随時進化させていく考えだ。

だが、業界別コレクションは、単にこれまで個別に提供していた各種製品をまとめて拡販することが本来の目的ではない。業界別コレクションに含まれている各種製品を組み合わせることで、企業が直面している課題を解決に導くことが本来の目的だという。

「こういう便利な機能があるので、

使ってみてくださいといった製品ありきの提案ではなく、お客様がどういうことに困っているかをきちんとヒアリングし、お客様自身がまだ気づいていない課題を見つけて、その課題解決につながる提案を行うことが重要です」と宮岡氏は語る。

例えば、AutoCAD LTだけを使っているお客様の場合、利用者がどのような課題を抱えているかを的確に把握しないと、次のステップには進めないという。

「お客様が2次元設計を続ける場合でも、AutoCAD Mechanicalを利用した方が効率化できる要素はたくさんあります。また、Product Design & Manufacturing Collectionにも含まれているクラウドベースのFusion 360を使用して、取引先とのデータのやりとりが円滑に行えるケースもあります。こうした提案ができるかどうかのポイントになります。なぜなら、単にソフトウェアを購入するだけならば、オンラインショップで簡単に手に入ります。逆に言えば、パートナー様が提供している独自のサポートサービスなどを併せて提案することで、ビジネスのボリュームを増やしていくことが、今後ますます重要になります」と宮岡氏は語る。 **BP**



CAD情報

Autodesk Architecture, Engineering & Construction Collection 建築・土木インフラ業向けパッケージを拡充 追加費用なしでVRやファブリケーションなどに対応

オートデスクは、建築・土木インフラ業界向けBIM/CIMパッケージのAutodesk Architecture, Engineering & Construction Collectionに複数のソフトウェアやクラウドサービスを追加し、2017年9月8日から発売を開始した。追加費用なしで新しい機能が利用できるのも費用対効果が大幅にアップ。建築・土木インフラ業界の生産性の向上に大きく寄与する。

Autodesk Revit Liveなど 6つの製品やサービスを追加

オートデスクは、築・土木インフラ向けパッケージであるAutodesk Architecture, Engineering & Construction Collection(以下AECコレクション)に複数のソフトウェアやクラウドサービスを追加することで、ビジュアライゼーション、解析、ファブリケーションなどの各業務で利用できる機能を拡充。これにより、追加費用なしで3Dデータを活用できる業務範囲が一気に拡大された。

今回、AECコレクションに追加されたソフトウェアやクラウドサービスのうち、とくに日本のユーザーに有用なものを取り上げて紹介する。

Autodesk Revit Live(レビット ライブ)は、オートデスクのBIMソフトウ

アであるAutodesk Revitのモデルデータから、簡単な操作でVRなどのできる最先端のクラウドサービスだ。

Robot Structural Analysis Professional(ロボット ストラクチュラル アナリシス プロフェッショナル)は、Autodesk Revitと組み合わせて利用する構造解析ソフトウェア。

Dynamo Studio(ダイナモ スタジオ)は、3D設計モデルの形状やパターンの検討を自動化することで効率アップに寄与するプログラミング環境を提供する。

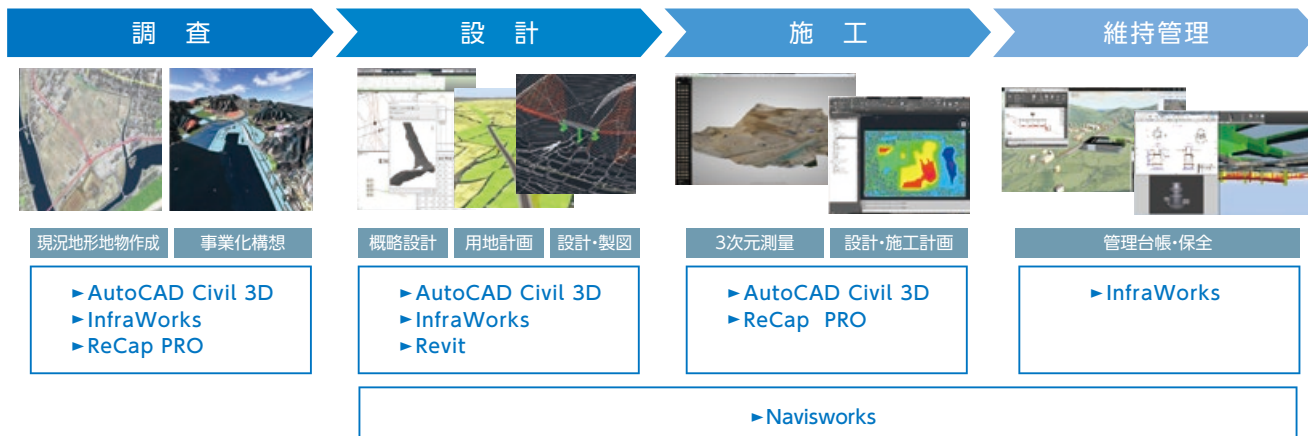
まず、Autodesk Revit Live。これは、Autodesk Revitで作成したBIMモデルをワンクリックでクラウドに送信し、インタラクティブなコンテンツを簡単に作成できる。それをクラウド上で

共有することで、建設プロジェクトの関係者などが完成前の建物や施設内をバーチャル上でリアルに体感しながら、さまざまな検討が行えるようになる。

また、Robot Structural Analysis Professionalを利用すれば、多種多様な構造物にかかる荷重の影響をテストし、建築基準に適合しているか事前に検証できるようになる。さらに、Dynamo Studioを使うことにより、複雑なジオメトリの操作やデータ処理の自動化、他のアプリケーションとの連携が可能になります。

このほか、AECコレクションには、さまざまな製品と革新的なテクノロジーが含まれており、設計、エンジニアリング、建設・施工の品質を向上させ、建築と土木インフラのプロジェクトの精度向上と業務効率化を強力に支援する。

土木業務ワークフローにおけるAECコレクションの活用例



CAD情報

Autodesk Media & Entertainment Collection ドローイングツールとクラウド利用権を追加 映像コンテンツ制作のさらなる効率化を実現

オートデスクは、メディア & エンタテインメント業界向けソフトウェアのパッケージ製品であるAutodesk Media & Entertainment Collectionに、ドローイングツールのSketchBook for Enterpriseとクラウド利用権を新たに追加。さらにArnold 5ライセンスキャンペーンで最新の高品質レンダリングを実現。これにより、最先端のデジタル技術を駆使した映像やテレビ番組、ゲーム、VRなどの制作プロセスがより一層効率化される。

パッケージ製品の価値が向上 お得なキャンペーンも展開

オートデスクのAutodesk Media & Entertainment Collection(以下M & Eコレクション)は、アニメーターやモデラー、ビジュアルエフェクト・アーティストなどがエンターテインメントコンテンツを製作するためのクリエイティブツールをパッケージ化したもの。これにより、映画やテレビゲームなどで使用される3Dキャラクターや趣向を凝らしたエフェクト、リアルな背景などを効率的に作成することが可能になる。

今回、M & Eコレクションに、ドローイングツールのSketchBook for Enterpriseとクラウド利用権を新たに追加したことで、パッケージ製品としての価値が大幅にアップ。エンターテインメントコンテンツをこれまで以上に柔軟かつシンプルに制作できる環境を実現している。

新たに追加されたSketchBook for

Enterpriseは、クリエイターやデザイナー、アーティスト志望者など絵を描くことに従事する人々のコンテンツ制作の幅を広げるドローイングツールだ。デジタルツールでありながら、本物の鉛筆やペン、マーカー、ブラシを使った描画やペイントに限りなく近い感覚を再現する。140種類以上のブラシや無限に作成できるレイヤ、パワフルな作図ガイドなど豊富な機能が実装されている。

一方、クラウド利用権は、サブスクリプション契約者がクラウド上のコンピュータリソースを利用できる権利。これにより、レンダリング・パイプラインを拡大させることができ、時間のかかるレンダリング処理などが高速に行えるようになる。

オートデスクは、今回のM & Eコレクションの拡充に伴い、「Arnold 5ライセンス キャンペーン」を展開している。9月8日以降にM & Eコレクションのサブスクリプションを新規購入するか、もしくは

は契約更新する顧客に対して、Arnoldライセンス5本を無料で提供するというもの。Arnoldとは、長編のアニメーション映画やビジュアルエフェクトの要求を満たすために設計された、高度なモンテカルロ式のレイトレーシングレンダラーのことで、これを利用することにより、エンターテインメントコンテンツで魅力的なイメージを作り出すことが可能になる。

また、M & Eコレクションに同梱されている、Autodesk Maya(包括的な3Dアニメーションソフトウェア)や、Autodesk 3ds Max(3Dモデリング、アニメーション、レンダリングソフトウェア)などにバージョンアップにより新機能も追加された。

これにより、「プロジェクトチームが担当する作業とクリエイティブ ワークフローとの連携がこれまでより確実になり、世界中の消費者に向けて物語に命を吹き込む映像やテレビ番組、ゲーム、VRなどの制作プロセスが効率化される」という。

M&Eコレクションに含まれる製品群

- Maya
- Character Generator
- 3ds Max
- A360 レンダリング
- MotionBuilder
- ReCap Pro
- Mudbox
- クラウド ストレージ (25 GB)

SketchBook for Enterpriseが
コレクションに新規追加

NEW!

Arnold 5ライセンスは、
期間限定でコレクションに追加

※2018年2月28日までのプロモーションです。

